

# 05 食道癌

※ レジメン名称を **クリック** または **Ctrl + クリック** してください。該当ページに移動します。

※ 印刷時は、**“現在のページを印刷する”** を選んでください。

	分類	コード	レジメン名 称	備 考
1	共通	05002-2A	<a href="#">FP 補助(手術前後・CRT 後)</a>	
2	共通	05004-1A	<a href="#">Docetaxel(食道)</a>	
3	科別(外科)	05005-1B	<a href="#">Low dose FP</a>	
4	科別(外科)	05006-1B	<a href="#">Low dose FP+Radiation</a>	
5	共通	05009-2A	<a href="#">Paclitaxel</a>	
6	共通	05010-1A	<a href="#">ニボルマブ療法(240mg)(食道 進行・再発)</a>	
7	共通	05011-1A	<a href="#">FOLFOX(食道)</a>	
8	共通	05012-1A	<a href="#">ペムブロリズマブ+FP</a>	
9	共通	05013-1A	<a href="#">DCF</a>	
10	共通	05014-2A	<a href="#">(標準)FP+Radiation</a>	
11	共通	05015-1A	<a href="#">ニボルマブ療法(480mg)(食道 進行・再発)</a>	
12	共通	05016-1A	<a href="#">ニボルマブ療法(240mg)(食道 術後補助)</a>	
13	共通	05017-1A	<a href="#">ニボルマブ療法(480mg)(食道 術後補助)</a>	

05002

食道癌

FP 補助(手術前後・CRT 後)

申請科

外科

H27.7 改訂、H28.6 改訂、H30.1 改訂 R3.6 改訂 R3.12 改訂 R4.3 改訂 R7.6 改訂

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1ケール)
フルオロウラシル (5-FU)	800 mg/m <sup>2</sup> /day	div.(24h 持続)	Day1~5
シスプラチン(CDDP) (cisplatin)	80 mg/m <sup>2</sup> /day	i. v. (側管) 又はdiv.(2h)	Day1

3~4週毎(術前は3週毎・2ケールで終了)

## Regimen

内服	アプレピタントカプセル及びデカドロン錠を併用する。  day1 アプレピタントカプセル125mg 化学療法前 1回 day2,3 アプレピタントカプセル80mg分1 朝食後	24時間	day2 5分 メイン①生理食塩液 50mL 1B フルオロウラシル注 ( )mg
			day3~4 24時間 メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg
内服	day2~4 デカドロン錠8mg分2 食後  day1 メイン①生理食塩液 50mL 1B 側①(メイン①終了後) 生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg	24時間	day5 24時間 メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg
			全開 メイン②生理食塩液 50mL 1B (5分)
5分	メイン②ソルデム3A 500mL 1B フルオロウラシル投与開始後、並行して開始	2時間	備 考
			・day2の点滴開始前にルートを交換
30分	メイン③パロセトロント点滴静注バッグ 0.75mg 1B デキサート注 6.6mg 1V	30分	【レジメンシステム登録】 05002-2A FP 補助(手術前後・CRT 後) インターバル3週で登録
			・アプレピタントはレジメン内の処方に登録 ・デカドロン錠は適宜処方内服オーダー
5分	側②(メイン④終了後、側①と別ルートで) 生理食塩液 50mL 1B 側③(側②と同一ルートから) 生理食塩液 500mL 1B	2時間	・アランザピン OD 錠 5mg 1錠 分1 夕食後 day1~4 <推奨制吐剤>現行に追加 ・オランザピン OD 錠は内服処方オーダー
			・オランザピン OD 錠は糖尿病患者及び糖尿病の既往のある患者には禁忌
5分	生理食塩液 50mL 1B シスプラチン ( )mg フルオロウラシルと同時に投与 側④(側③シスプラチン終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B	2時間	
2時間	メイン⑤ソルデム3A 500mL 1B メイン⑥ソルデム3A 500mL 1B	6時間	
5分	側⑤(側①フルオロウラシル終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B		

05004

食道癌

Docetaxel(食道)

申請科

外科

H21.2 承認 H.27.7 改訂 H31.1 改訂 R2.6 改訂 R3.5 改訂

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1ケール)
ドセタキセル (docetaxel)	60mg~70mg/m <sup>2</sup>	i. v. (1h以上)	day1

3週毎

耐性になるまで

化療ベット予約：2時間で登録

## Regimen

30分	day1 メイン①グラニセトロン点滴静注バッグ 1mg 1B デキサート注 6.6mg				
	側①5%ブドウ糖液 250mL 1B ドセタキセル ( )mg				
	側②生理食塩液 50mL 1B				
備 考					
<p>【レジメンシステム登録】</p> <p>05004-1A Docetaxel(食道) · 70mg/m<sup>2</sup>で登録</p>					

05005

## 食道癌

Low dose FP

申請科

外科

H27.7 改訂、H28.6 改訂 H30.10 改訂 H31.3 改訂 科別(外科)

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1ケール)
フルオロウラシル (5-Fu)	500~750mg／body／day	div.(24h 持続)	5day／w × 4week
シスプラチン(CDDP) (cisplatin)	5~10mg／body／day	i. v. (側管)	5day／w × 4week

6週間毎

## Regimen

5 分 24 時間 緩徐に	<b>day1</b>				
	メイン①生理食塩液 50mL 1B メイン②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div. )				
5 分 24 時間 緩徐に	側②生理食塩液 50mL 1B <b>day2~4</b> メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div. )				
	側②生理食塩液 50mL 1B				
24 時間 緩徐に	<b>備 考</b>				
	<p><b>【レジメンシステム登録】</b>            05005-1B Low dose FP            ・5-FU 750mg/body で登録            ・CDDP 10mg/body、生食 100mL で希釈、            60 分点滴静注で登録         </p>				
5 分 全開 (5 分)	<b>day5</b>				
	メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div. )				
5 分 全開 (5 分)	側②生理食塩液 50mL 1B メイン②生理食塩液 50mL 1B				
	(4週繰り返し、2週休薬)				

05006

食道癌

Low dose FP+Radiation

申請科

外科

H27.7 改訂、H28.6 改訂 H30. 改訂 科別(外科)※消化器内科から外科へ H24.3

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1クール)
フルオロウラシル (5-Fu)	200mg/m <sup>2</sup> /day	div.(24h 持続)	5day/week × 6weeks
シスプラチン(CDDP) (cisplatin)	4mg/m <sup>2</sup> /day	i. v. (側管) 又はdiv.(60 分)	5day/week × 6weeks
Radiation	2Gy/Day (60Gy/30Fr/6w)		5day/week × 6weeks

6週1クールで終了

## Regimen

5 分 24 時間 緩徐に	<b>day1</b> メイン①生理食塩液 50mL 1B emain②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div.)	24 時間 緩徐に	<b>day5</b> emain①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div.)
	5 分 側②生理食塩液 50mL 1B		5 分 側②生理食塩液 50mL 1B
24 時間 緩徐に	<b>day2～4</b> emain①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg 側①シスプラチン注 ( )mg (緩徐に iv. または 生理食塩液 100mL で60分 div.)	全 開 (5 分)	emain②生理食塩液 50mL 1B  (6 週繰り返す)
	5 分 側②生理食塩液 50mL 1B		

## 備 考

## 【レジメンシステム登録】

05006-1B Low dose FP+Radiation

・1 クール 6 週間

(day1～5・8～12・15～19・22～26・29～33

・36～40 投与)で入力

・CDDP:生食 100mL で希釈、60 分点滴静注で  
登録

05009

食道癌

Paclitaxel

申請科

内科

H30.3 改訂 R3.9 改訂 R4.3 改訂 R6.10 改訂

薬品名	1回投与量	投与経路・時間	投与方法(1ケール)
パクリタキセル (paclitaxel)	100mg/m <sup>2</sup>	div. (1h).	day1、8、15、 22、29、36

6投1休(7週間毎)

耐性になるまで

(外来) 化療ベット予約: 2時間で登録

## Regimen

10分	day1、8、15、22、29、36 メイン①生理食塩液 100mL 1B デキサート注 6.6mg 1V ファモチジン注 20mg 1V ポララミン注 5mg 1A		
30分	側①生理食塩液 50mL 1B		
1時間	側②5%ブドウ糖液 250mL 1B パクリタキセル点滴静注液( )mg		
5分	側③生理食塩液 50mL 1B		

## 備 考

【レジメンシステム登録】

05009-2A Paclitaxel

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05010	共通	食道癌	<u>ニボルマブ療法(240mg)(食道 進行・再発)</u>	外科・ 消化器外科
適応患者				
病期(stage) ; I IIa IIb IIIa IIIb <input checked="" type="checkbox"/> IV PS; 0 ~ 1 (まで)			<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )	
薬剤の量・経路・時間・1ケールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(ケール数)、化療ペット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1ケール)	
オプジー <sup>ボ</sup> (Nivolumab)	240mg/body	div.(30 分)	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	2週毎 可能な限り継続	化療ペット予約: 1時間で登録		
Radiation 併用 無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート			
5 分 30 分 全開 (5 分)	day1 メイン①生理食塩液 50mL 側①生理食塩液 100mL オプジー <sup>ボ</sup> 240mg 側②生理食塩液 50mL	1B 1B 1B	備 考	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・オプジー<sup>ボ</sup>投与にあたり、インラインフィルター(0.2 又は 0.22 ミクロン)を使用すること。</li> <li>・オプジー<sup>ボ</sup>希釈後の点滴溶液中の最終濃度は 0.35mg/mL 以上、総液量は 60mL 以上を目安とすること。</li> </ul> <p>なお、希釈する場合、総液量は体重 30kg 以上の患者には 150mL 以下、体重 30kg 未満の患者には 100mL 以下とする必要があるため、体重 30kg 未満の場合はボトルから生食 30mL を抜き取る(薬剤部調製時)(薬品コメントとして登録済)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30 分以上かけて点滴静注すること。</li> <li>・オプジー<sup>ボ</sup>により infusion reaction が発現することがあるため、オプジー<sup>ボ</sup>として初回投与時は投与中及び投与終了後バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度)をモニターする等、患者の状態を十分に観察すること。</li> </ul> <p>【レジメンシステム登録】 05010-1A ニボルマブ療法(240mg)(食道 進行・再発)</p>	

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05011	共通	食道癌	<u>FOLFOX (食道)(アロキシ)</u>	外科
適応患者				
病期(stage) ; I IIa IIb IIIa IIIb <b>IV</b> PS; ~ (まで)			<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )	
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ペット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
オキサリプラチン 5-FU	85mg/m <sup>2</sup> /day 400mg/m <sup>2</sup> /Day 2400mg/m <sup>2</sup> /46h	Div(120min) Div(15min) Div(46h)	Day1 Day1 Day1~3	
レボホリナート	200mg/m <sup>2</sup> /Day	Div(2h)	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	2週毎 可能な限り継続	化療ペット予約: 3時間で登録		
Radiation併用 無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート	46時間	Day 1~3	
30分	Day1 ポート①生理食塩液 20mL フラッシュ1本 メイン①ハロセトロン点滴静注バッグ 0.75mg 1B デキサート注 6.6mg 1V		静脈ポート(シャーフューザーA SFS-1036HRP) ポート②フルオロウラシル( )mg 生理食塩液 100mL ※全量100mLに調製する。 (ポート=2400mg/m <sup>2</sup> ) ポート③ヘパリン Na ロック用 (100 単位/mL)10mL 1本	
2時間	メイン②5%ブドウ糖液 250mL 1B レボホリナート( )mg			
2時間	側①(メイン②と同時に) 5%ブドウ糖 250mL 1B オキサリプラチン( )mg		備考	
15分	側②(メイン②終了後) 5%ブドウ糖 100mL 1B フルオロウラシル( )mg (側②400mg/m <sup>2</sup> )		【レジメンシステム登録】 05011-1A FOLFOX(食道)(アロキシ)	
5分	側③生理食塩液 50mL 1B			

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05012-1A	共通	進行再発食道癌	<u>ペムブロリズマブ+FP</u>	外科
<b>適応患者</b>				
病期(stage); I IIa <input checked="" type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb <input type="checkbox"/> IIIc <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> IVa <input type="checkbox"/> IVb PS; 0~1 (まで)			<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )	
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投回数(クール数)、化療ベット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
キイトルーダ (pembrolizumab) フルオロウラシル (5-FU) シスプラチン(CDDP) (cisplatin)	200mg/body 800mg/m <sup>2</sup> /day 80mg/m <sup>2</sup> /day	div(30分) div(24持続) div(2h)	day1 day1~5 day1	
インターバル日数・ 最大投回数(End point)※	3週毎・回 Pem、5 FU: 35 クール、 CDDP: 6 クール	化療ベット予約: 時間で登録		
Radiation 併用 無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
<b>レジメン</b>				
投与時間	投与日及び投与ルート	2時間	側⑤(側④と同ルートから)	
内服 5分	アプレピタントカプセル及びデカドロン錠を併用 day1 アプレピタントカプセル 125mg 化学療法前 1回 day2,3 アプレピタントカプセル 80mg 分1 朝食後 day2~4 デカドロン錠 8mg 分2 食後 <b>day1</b> メイン①生理食塩液 50mL 1B	5分	生理食塩液 500mL 1B シスプラチン ( )mg フルオロウラシルと同時に投与	
	側①生理食塩液 100mL 1B キイトルーダ 100mg 2V			
30分 5分	側②生理食塩液 50mL 1B	2時間	メイン⑤ソルデム 3A 500mL 1B	
	側③(側②終了後) 生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg		メイン⑥ソルデム 3A 500mL 1B	
24時間	側④(側③終了後) 生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg	6時間	側⑦(側④フルオロウラシル終了後、同ルートから) 生理食塩液 50mL 1B	
	メイン②ソルデム 3A 500mL 1B フルオロウラシル投与開始後、並行して開始			
2時間 30分	メイン③パロセトロントドロース静注バッグ 0.75mg 1B デキサート注 6.6mg 1V	24時間	day2 メイン①生理食塩液 50mL 1B メイン②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg	
	メイン④マンニットール S 300mL 1B フルオロウラシルを止めて投与			
30分 5分	側④(メイン④終了後、側③と別ルートで) 生理食塩液 50mL 1B	24時間 全開(5分)	day3~4 メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg	
	側⑤(側④終了後、側③と別ルートで) 生理食塩液 50mL 1B			
			day5 メイン②生理食塩液 50mL 1B	

## レジメン

### 備考

※疾患進行又は許容できない毒性発現まで継続(キイトルーダ、フルオロウラシルは最大 35 サイクル、シスプラチン投与は最大 6 サイクル)(MSD 臨床試験方法資料から抜粋)

- ・キイトルーダ投与にあたり、インラインフィルター(0.2~5 μm)を使用すること
- ・キイトルーダ希釈後の点滴溶液中の最終濃度は 1~10mg/mL となるように調製すること
- ・キイトルーダは 30 分間かけて点滴静注すること
- ・キイトルーダにより infusion reaction が発現することがあるため、キイトルーダとして初回投与時は投与中及び投与終了後バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度)をモニターする等、患者の状態を十分に観察すること
- ・day2 の点滴開始前にルートを交換

### 【レジメンシステム登録】

05012-1A ペムブロリズマブ+FP

- ・アプレビタントはレジメン内の処方に登録

- ・デカドロン錠は適宜処方内服オーダ

### <推奨制吐剤>現行に追加

オランザピン OD 錠 5mg 1錠 分1 夕食後 day1~4

・オランザピン OD 錠は内服処方オーダ

・オランザピン OD 錠は糖尿病患者及び糖尿病の既往のある患者には禁忌

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05013-1A	共通	食道癌	<u>DCF</u>	外科・消化器外科
適応患者				
病期(stage); I <input checked="" type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV PS; 0~1 (まで)			<input type="checkbox"/> adjuvant <input checked="" type="checkbox"/> neoadjuvant <input type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他	
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ペット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
ドセタキセル (Docetaxel) シスプラチン (Cisplatin) フルオロウラシル (5-FU)	70mg/m <sup>2</sup> 70mg/m <sup>2</sup> 750mg/m <sup>2</sup>	div(1h) div(2h) div(24h 持続)	Day1 Day1 Day1~5	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	3週毎・3回	化療ペット予約: 時間で登録		
Radiation併用 無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート	2時間	側⑤(側④と同一路由から)	
内服	アプレビタントカプセル及びデカドロン錠を併用する day1 アプレビタントカプセル 125mg 化学療法前 1回 day2,3 アプレビタントカプセル 80mg 分1 朝食後 day2~4 デカドロン錠 8mg 分2 食後	5分	生理食塩液 500mL	1B
	シスプラチン ( )mg フルオロウラシルと同時に投与			
内服	day1	2時間	側⑥(側⑤シスプラチン終了後、同一路由から)	
	メイン①パロセトロントロ点滴静注バッグ 0.75mg 1B デキサート注 6.6mg 1V デキサート注 1.65mg 2A		生理食塩液 50mL	1B
30分	側①5%ブドウ糖液 250mL 1B ドセタキセル ( )mg	6時間	メイン④ソルデム 3A 500mL	1B
	側②生理食塩液 50mL 1B		メイン⑤ソルデム 3A 500mL	1B
60分	側③(側②終了後)	5分	側⑦(側③フルオロウラシル終了後、同一路由から)	
	生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg		生理食塩液 50mL	1B
5分	day2	24時間	day2	
	メイン①生理食塩液 50mL 1B メイン②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg		メイン①生理食塩液 50mL	1B
24時間	day3~4	24時間	メイン②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg	
	生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg		day5	
2時間	メイン③マンニットール S 300mL 1B フルオロウラシルを止めて投与	24時間	メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg	
	側④(メイン③終了後、側③と別ルートで) 生理食塩液 50mL 1B		メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル ( )mg	
30分	day6	全開(5分)	メイン②生理食塩液 50mL 1B	
	生理食塩液 50mL 1B		備考	
<推奨制吐剤>現行に追加 オランザピン OD錠 5mg 1錠 分1 夕食後 day1~4 ・オランザピン OD錠は内服処方オーダー <sup>※</sup> ・オランザピン OD錠は糖尿病患者及び糖尿病の既往のある患者には禁忌	・day2 の点滴開始前にルートを交換			
	【レジメンシステム登録】			
	05013-1A DCF			
	・アプレビタントはレジメン内の処方に登録			
	・デカドロン錠は適宜処方内服オーダー			

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05014-1A	共通	食道癌	(標準)FP+Radiation	消化器内科
適応患者				
病期(stage); I IIa IIIa IIIb IV PS; 0~2(まで)		□adjuvant □ neoadjuvant ■再発・進行□その他		
薬剤の量・経路・時間・1ケールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(ケール数)、化療ペット時間				
薬品名		1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1ケール)
5-FU		700mg/m <sup>2</sup> /日	点滴(24時間持続)	1~4日目
シスプラチニ(CDDP)		70mg/m <sup>2</sup> /日	点滴(2時間)	1日目
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)		4週毎・2回	化療ペット予約:	時間で登録
Radiation併用 <input checked="" type="checkbox"/> 無		1回 2Gy × 30日、 Total 60Gy × Fr		
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート		6時間	メイン⑥ソルデム3A 500mL 1B
内服	アプレビタントカプセル及びデカドロン錠を併用する。 day1 アプレビタントカプセル125mg 化学療法前 1回		5分	側⑤(側①フルオロウラシル終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B
	day2,3 アプレビタントカプセル80mg分1 朝食後 day2~4 デカドロン錠8mg分2 食後		5分	<b>day2</b> メイン①生理食塩液 50mL 1B
24時間	<b>day1</b> メイン①生理食塩液 50mL 1B 側①(メイン①終了後) 生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg		24時間	メイン②生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg
	day2 メイン②ソルデム3A 500mL 1B フルオロウラシル投与開始後、並行して開始		24時間	<b>day3</b> メイン①生理食塩液 1L 1B フルオロウラシル注 ( )mg
30分	day3 メイン③パロノセトロン点滴静注バッグ 0.75mg 1B デキサート注 6.6mg 1V		全開(5分)	<b>day4</b> メイン②生理食塩液 50mL 1B
	day4 メイン④マンニットールS 300mL 1B フルオロウラシルを止めて投与			
5分	day5 側②(メイン④終了後、側①と別ルートで) 生理食塩液 50mL 1B			<b>備考</b>
	day6 側③(側②と同一ルートから) 生理食塩液 500mL 1B シスプラチニ ( )mg フルオロウラシルと同時に投与			
2時間	day7 側④(側③シスプラチニ終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B			<b>【レジメンシステム登録】</b>
	day8 メイン⑤ソルデム3A 500mL 1B			・day2の点滴開始前にルートを交換
5分	day9 側④(側③シスプラチニ終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B			<b>【レジメンシステム登録】</b>
	day10 メイン⑤ソルデム3A 500mL 1B			05014-1A (標準)FP+Radiation
2時間	day11 側④(側③シスプラチニ終了後、同一ルートから) 生理食塩液 50mL 1B			・アプレビタントはレジメン内の処方に登録
	day12 メイン⑤ソルデム3A 500mL 1B			・デカドロン錠は適宜処方内服オーダー
<b>&lt;推奨制吐剤&gt;現行に追加</b>				
オランザピンOD錠 5mg 1錠 分1 夕食後 day1~4				
・オランザピンOD錠は内服処方オーダー				
・オランザピンOD錠は糖尿病患者及び糖尿病の既往のある患者には禁忌				

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05015-1A	共通	食道癌	<u>ニボルマブ療法(480mg)(食道 進行・再発)</u>	外科・消化器外科
適応患者				
病期(stage) ; I IIa IIb IIIa IIIb <b>IV</b> PS; 0 ~ 1 (まで)		<input type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input checked="" type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )		
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ペット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
オプジー <sup>ボ</sup> (Nivolumab)	480mg/body	div.(30 分)	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	4週毎 可能な限り継続	化療ペット予約: 1時間で登録		
Radiation 併用 無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート		備考	
5分	day1	1B		
	メイン①生理食塩液 50mL			
30分	側①生理食塩液 100mL オプジー <sup>ボ</sup> 240mg	1B 2V	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプジー<sup>ボ</sup>投与にあたり、インラインフィルター(0.2 又は 0.22 ミクロン)を使用すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>希釈後の点滴溶液中の最終濃度は 0.35mg/mL 以上、総液量は 60mL 以上を目安とすること。</li> </ul> <p>なお、希釈する場合、総液量は体重 30kg 以上の患者には 150mL 以下、体重 30kg 未満の患者には 100mL 以下とする必要があるため、体重 30kg 未満の場合はボトルから生食 30mL を抜き取る(薬剤部調製時)(薬品コメントとして登録済)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>30 分以上かけて点滴静注すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>により infusion reaction が発現することがあるため、オプジー<sup>ボ</sup>として初回投与時は投与中及び投与終了後バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度)をモニターする等、患者の状態を十分に観察すること。</li> </ul> <p>【レジメンシステム登録】 05015-1A ニボルマブ療法(480mg)(食道 進行・再発)</p>	
全開 (5分)	側②生理食塩液 50mL	1B		

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05016-1A	共通	食道癌	<a href="#">ニボルマブ療法(240mg)(食道 術後補助)</a>	外科・消化器外科
適応患者				
病期(stage); I <input checked="" type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb IV PS; 0 ~ 1 (まで)		<input checked="" type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )		
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ベット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
オプジー <sup>ボ</sup> (Nivolumab)	240mg/body	div.(30分)	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	2週毎・24回	化療ベット予約:1時間で登録		
Radiation 併用 有・無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート		備考	
5分	day1 メイン①生理食塩液 50mL	1B		
30分	側①生理食塩液 100mL オプジー <sup>ボ</sup> 240mg	1B 1V	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプジー<sup>ボ</sup>投与にあたり、インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>希釈後の点滴溶液中の最終濃度は0.35mg/mL以上、総液量は60mL以上を目安とすること。</li> <li>なお、希釈する場合、総液量は体重30kg以上の患者には150mL以下、体重30kg未満の患者には100mL以下とする必要があるため、体重30kg未満の場合はボトルから生食30mLを抜き取る(薬剤部調製時)(薬品コメントとして登録済)。</li> <li>30分以上かけて点滴静注すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>によりinfusion reactionが発現することがあるため、オプジー<sup>ボ</sup>として初回投与時は投与中及び投与終了後バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度)をモニターする等、患者の状態を十分に観察すること。</li> </ul> <p>【レジメンシステム登録】</p> <p>05016-1A ニボルマブ療法(240mg)(食道 術後補助)</p>	
全開 (5分)	側②生理食塩液 50mL	1B		

コード	分類	病名	レジメン名称	申請科
05017-1A	共通	食道癌	<u>ニボルマブ療法(480mg)(食道 術後補助)</u>	外科・消化器外科
適応患者				
病期(stage); I <input checked="" type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb IV PS; 0 ~ 1 (まで)		<input checked="" type="checkbox"/> adjuvant <input type="checkbox"/> neoadjuvant <input type="checkbox"/> 再発・進行 <input type="checkbox"/> その他( )		
薬剤の量・経路・時間・1クールの投与方法・インターバル日数、最大投与回数(クール数)、化療ベット時間				
薬品名	1回(1日)投与量	投与経路及び時間	投与方法(1クール)	
オプジー <sup>ボ</sup> (Nivolumab)	480mg/body	div.(30分)	Day1	
インターバル日数・ 最大投与回数(End point)	4週毎・12回	化療ベット予約: 1時間で登録		
Radiation 併用 有・無	1回 Gy × 日、 Total Gy × Fr			
レジメン				
投与時間	投与日及び投与ルート		備考	
5分	day1 メイン①生理食塩液 50mL	1B		
30分	側①生理食塩液 100mL オプジー <sup>ボ</sup> 240mg	1B 2V	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプジー<sup>ボ</sup>投与にあたり、インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>希釈後の点滴溶液中の最終濃度は0.35mg/mL以上、総液量は60mL以上を目安とすること。</li> <li>なお、希釈する場合、総液量は体重30kg以上の患者には150mL以下、体重30kg未満の患者には100mL以下とする必要があるため、体重30kg未満の場合はボトルから生食30mLを抜き取る(薬剤部調製時)(薬品コメントとして登録済)。</li> <li>30分以上かけて点滴静注すること。</li> <li>オプジー<sup>ボ</sup>によりinfusion reactionが発現することがあるため、オプジー<sup>ボ</sup>として初回投与時は投与中及び投与終了後バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度)をモニターする等、患者の状態を十分に観察すること。</li> </ul> <p>【レジメンシステム登録】</p> <p>05017-1A ニボルマブ療法(480mg)(食道 術後補助)</p>	
全開 (5分)	側②生理食塩液 50mL	1B		